

# ふじがわ

## 町のメモ

昭和61年12月1日現在	
人口	16,897人
増減	-6人
男	8,334人
女	8,563人
世帯数	4,408世帯
面積	31.09km <sup>2</sup>

富士川町 総務課

12月号 昭和61年12月5日発行 No.305



見事なよろいで身を固め  
いざ合戦場へ

(町立第一小学校)  
源平富士川合戦

町のことしの目標  
「健康な心とからだに住みよい町に」

### おもな内容

- 2～3ページ 御製歌碑をシンボルとした歌碑公園が完成、町文化協会が彫像を寄贈
- 4～5 秀村敏朗氏に名誉町民の称号を、町制施行85周年・町村合併30周年を祝う式典や文化祭が盛大に
- 6～7 町の昔ばなし伝説
- 8～9 戸籍の窓、短歌会

### 富士川町民憲章

1. わたくしたちは、富士川町民としての自覚をもって郷土のためにつくしましょう。
1. わたくしたちは、心身をきたえ、仕事にはげんで豊かな町にいたしましょう。
1. わたくしたちは、教養を高め、情操を深めて明るい家庭をきずきましょう。
1. わたくしたちは、奉仕につとめ、力をあわせて住みよい社会をつくりましょう。
1. わたくしたちは、創造と努力によって町の未来をひらきましょう。



御製歌碑  
(高さ2.5m、幅1m、厚さ30cm、御影石製)



常葉町長・佐野議長・東園堂典長による除幕(写真右から)



整備された歌碑公園全景



寄贈された彫像「火口」

除幕する常葉町長  
秀村文化協会長



### 中央公民館のシンボルとして

#### 町文化協会が彫像を寄贈

町文化協会(秀村敏朗会長・会員約九百人)から町に彫像が贈られ、11月27日中央公民館玄関広場で、文化協会役員など約四十人が出席し、除幕式が行われました。

この彫像は、文化活動の拠点として中央公民館建設の要望を進めてきた同会の念願が果たされたお礼として贈られたものです。設置された像は、日展彫像の部招待作家で、西伊豆町在住の堤達男氏の作品で、昭和50年第七回日展の出品作品です。この像は、過去と未来をみつめる女性像のイメージをあらわし、「火口」と名付けられています。当日、秀村文化協会長さんは「町の文化を向上させていく上で、たいへんふさわしい像だと思います。今後、文化活動拠点の中央公民館のシンボルとしていただきたい」と話していました。

## 町制施行85周年記念・天皇陛下御在位60年記念

# 御製歌碑をシンボルとした 歌碑公園が完成

町制施行八十五周年と天皇陛下御在位六十年を記念し、今年の8月から中央公民館東側に建立を進めてきた御製歌碑が完成し、11月27日常葉雅文町長、東園基文宮内庁掌典長、佐野喜平町議会議長、町議会議員、名誉町民秀村敏朗氏、国會議員、国・県関係機関、工事関係者など約百六十人の出席のもとに、除幕式が盛大に行われました。

### 式典では

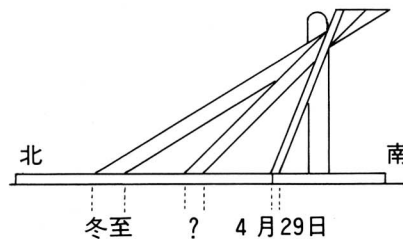
常葉町長、東園基文宮内庁掌典長、佐野喜平議長の三名によって御製歌碑が除幕された後、町文化協会に所属する、盟吟正風会(杉山正隆会長)の会員二十一人によって御製が式典会場いっぱい響きわたる声で朗詠されました。

### 日時計を設置

なお、歌碑の御製は、町内在住の西大路隆和氏(相生町)のご紹介により、宮内庁掌典長を務められる東園基文氏がお書きくださいました。

ふじのみね 雲間に見えて  
橋わたる今の 富士川の

御製歌碑は、高さ二・五メートル、幅一メートル、厚さ三十センチの御影石製で、上部に穴が開けられ、古



この御製は、天皇陛下が昭和56年10月滋賀国体に向かわれる途中、新幹線で富士川をお渡りになった時のご印象を、昭和57年の歌会始の儀に「橋」のお題でお詠みになられたものです。

代から太陽の光の恵みを受けることの象徴として、永遠に変わらない太陽の運行を示す造形物としての日時計が設置されています。この穴から射し込む光で、天皇誕生日や冬至などの季節がわかるようになっていきます。

### 松野産の俵石で

御製歌碑をシンボルとして建設された歌碑公園は、約三百五十平方メートルで、歌碑を中心として、周囲を松野で産出される俵石で造った延長約百メートルのベンチなどが設けられています。

歌碑の建立や公園建設工事には、総額一千万円が費やされました。

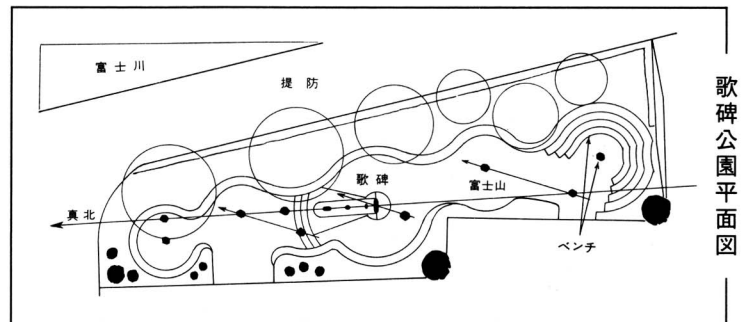
俵石(火成岩・玄武岩)とは、公園のベンチなどに使用されているこの石は、町内南松野で産出される奇岩です。沖積世初期における富士山噴火のさいの溶岩で、徐々に冷やされ収縮し、五角や六角の柱状節理が生じてきたものです。俵を縦に並べたような形状で、長いものは十メートルにも達しています。町指定文化財はたご池の石碑や第二幼稚園園門柱などにも利用されています。

### 憩の場として

#### 大いに活用を

御製歌碑建設などを検討していくなかで、中央公民館に接し、堤防の松並木の緑、この松の緑に映える富士山や富士川を一望できるこの場所が最適地として選ばれました。今後、町民のみなさんの憩の場としての活用が大いに期待されています。

歌碑公園平面図



### 秀村敏朗氏に 名誉町民の称号を



秀村敏朗氏  
(70)  
(俣下町)

秀村敏朗氏に、11月27日行われた町制施行八十五周年・町村合併三十周年記念式典において、富士川町名誉町民の称号が贈られました。

同氏は、九州帝国大学医学部を卒業後、同大病院を経て、昭和23年からご尊父が開業された医院を受け継がれ、以後、同年9月から小・中学校の校医を三十八年間にわたり務められ、また、旧松野村議会議員・町議会議員として、そして、町文化協会会長を、設立当時の昭和38年10月から現在まで務められるなど、数多くの要職を歴任され、保健衛生の向上、地方自治の振興、教育文化の発展・振興などに貢献された功績によるものです。同氏は「町内には町の発展に

### 一里塚が県指定文化財に

町指定文化財の「一里塚」が、11月20日開かれた静岡県教育委

員会の定例会で、新たに県の文化財に指定されました。



この一里塚は、今から三百八十年ぐらい前の慶長9年2月、徳川幕府の命令によって、大久保長安が東海道の一里(約四越)

ごとに塚を築き榎を植え、大名の参勤交代や旅人の道程の便などを図るために築造されたもので、同年5月に完成したといわれ、江戸の日本橋を起点として、三十七里目にあたります。また、左右一対のうち、一方の榎は、塚が築かれた当時植えられたといわれ、根回り約七尺、高さ約二十八尺です。

県指定文化財となった  
一里塚

### 第二十二回全国身障スポーツ大会で 深沢さんが銅メダルを獲得



深沢祐子さん  
(50)  
(大北町)

10月25・26日の両日、山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場で「第二十二回全国身障者スポーツ大会」が行われ、走巾跳に出場した深沢祐子さん(大北町)が見事三位となり、銅メダルを獲得しました。

県内の旧東海道には、四十五か所に一里塚が築かれたようですが、左右一対の塚が残っているのは、大正十一年に国指定文化財となっている三島市の一里塚と今回県の指定を受けた当町の一里塚だけです。東海道五十三次史を研究する上でも、大変貴重な塚として、このたびの指定となりました。

深沢さんは「この大会に出場し、自分より重障者の選手が一生懸命各種目に挑戦する姿を見て、まだ自分に甘さがあるということがわかりました。今回運よく三位となりましたが、これをはじめとして今後も県内の各種大会に出場し、身体障害者のみなさんのお手伝いをしながら一緒にがんばっていききたい」と力強く話していました。

### 町制施行八十五周年・ 町村合併三十周年を祝う

11月3日中央公民館で、町制施行八十五周年と町村合併三十周年を記念する式典が、常葉雅文町長、佐野喜平町議会議長、国會議員、近隣市町村長、町議會議員など約四百五十人が出席し盛大に行われました。

式典では、まず長年教育文化の振興などに多大の功績を上げられた秀村敏朗氏(俣下町)に名誉町民の称号が贈られ、引き続き町長として地方自治の振興に寄せられた常葉町長に町議會議員として感謝状が贈られました。続いて、町の発展に貢献された八人に功労表彰が、一事業所に表彰状が、また、五十二人に感謝状が贈られました。

### ◎表彰の部

◎表彰の部  
◎記念式典表彰者(敬称略)  
◎池谷勲夫  
◎太田国弘  
◎谷津倉章夫  
◎永年勤続(町職員)  
◎深沢好己  
◎野口政義

### ◎表彰の部

◎名誉町民の称号

◎秀村敏朗

◎町議會議員

◎常葉雅文

◎自治功勞

◎森木善吉

◎芦川清司

◎渡辺勉

◎教育文化功勞

◎大村好光

◎尾崎初男

◎久保田幸男

◎納税貯蓄功勞

◎奥村院英

◎治安維持功勞

◎故花田章

◎多額寄付者

◎株式会社スルガ

◎感謝状の部

◎篠田天秀

◎小林利夫

◎小川彬  
◎若月忠雄

◎保健衛生

◎立花好

◎産業経済

◎渡辺久雄

◎芦川勝巳

◎望月一郎

◎土橋利治

◎若月長作

◎永年勤続(事業所)

◎白鳥信吉

◎原 勇

◎清利亘

◎芦川光雄

◎森中政夫

◎植野隆次

◎清水恵美子

◎若月節子

◎佐野政弘

◎宇佐美春雄

◎中川晟

◎鈴木幸雄

◎清水澄

◎佐野一

◎木本弘

◎進藤章

◎赤堀二一

◎石部利武

◎麻布了

◎望月栄子

◎木内安次

◎小泉亀策

◎望月卯吉

◎望月伸泰

◎田中孝次郎

◎若月孝恒

◎辻村勝治

◎佐藤守彦

◎浦田修

◎田辺幸男

◎田辺明光

◎伏見要造

◎若月龍仁

◎加藤清治

◎杉沢哲

◎原田時夫

◎谷津倉三次

### わだいの

### 北松野地区親善ゲートボール大会が 北松野上谷のスポーツ広場で

11月23日北松野上谷のスポーツ広場で、「北松野地区親善ゲートボール大会」(主催、北松野地区老人会・高岡太郎会長、俣下クラブ・中川久一会長)が行われました。

この大会は、お年寄りや若者がゲートボールを通して親睦を深め、明るい地域づくりに寄与し、併せてお年寄りの健康増進を図ることを目的として行われました。

出場した八チーム約五十人の選手は二リーグに分かれ、和気あいあいに熱戦をくりひろげました。大会結果は次のとおりです。(敬称略)

### ◎団体戦優勝

大北町百年会

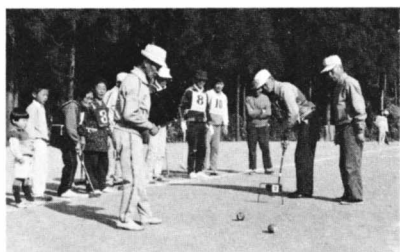
### ◎個人戦優勝

◎朝比奈英男

(俣下町)

◎勝亦喜太郎(清水町)

◎宇佐美猪太郎(大北町)



親睦を深める選手

### 友好の使者として 浙江省民族音楽団来町

11月7日中央公民館ホールで、庵原郡日中友好協会主催による「浙江省青少年少数民族音楽団庵原友好公演」が行われました。

この公演は、静岡県と友好都市提携を結んでいる中国浙江省の音楽学院生徒八人が、友好の使者として訪ずれ、午後第一中学校生徒を対象に、夜一般町民を対象として行われました。

午後の公演では、民族楽器などによる演奏や舞踊などを次々と披露し、一中の生徒は校歌などを合唱して交流を深めました。また、夜の公演では、旭町幼稚園やし保存会・町文化協会員・第一幼稚園児などが、シャギリばやし・富士川音頭・遊ぎ・琴・尺八・ピアノ・演奏などを行い大歓迎し、団員は、民族音楽など約二十一曲を演奏し、聴衆は見事な演奏に聴き入っていました。



見事な舞いを披露

ガイドブックや地図を見て、自分たちで出かけるコースを探しだすのは、野外活動の楽しみの一つです。また一度行った場所でも、季節、時間、コースを変えることで、新しい発見をすることもあります。

▶時間や季節をずらす

休日などは人波のピークも決まってくる。夜明けの早いうちに出発したり、ちょっとおそく出発してみるのもよい。また、季節をずらして出かけるなど工夫してみよう。一般に、冬は野外活動のシーズンオフと考えられているけれど、木立は葉を落として見通しも良いし、南斜面は、思いのほかあたたかいものだ。

▶地図をながめて

ある地点を決めて、そこへのルートをとってみよう。意外な掘り出しものをするかもしれない。



—親子で挑戦!—

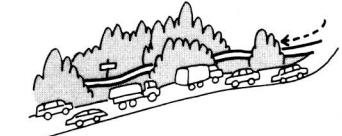
野外生活の知恵 サバイバル入門

▶逆コースをとる



ガイドブックに出ている道順の逆コースをえらんでみよう。思いのほか、静かな自然に出会えるものだ。

▶廃道や旧道を歩こう



道路や乗り物の発達で、すっかり人が通らなくなった旧道、昔の街道や山道を探して行く。

▶人気のなくなったコース

古いガイドブックを調べて、人気のなくなったコースを探す。



ワイルドなコースを探す

▼社会教育あれこれ▲

アリギリス

アリとキリギリスという寓話がある。キリギリスのように先の事はあまり考えず、その場を楽しく、面白く過そうとする考えを戒め、日々の労働に汗し、コツコツと己の生活を築いていくことの大切さを教えてくれる話である。今年も早や師走。経つてみると早いのが時間であり、気がつくともう十二月である。

この一年間、アリの如く額に汗して、そこに喜びを見出すほどの毎日であったかどうかいささか自信はないし、キリギリスの生活を送るほどではない。何となく小市民の生活はこんなものではないかなとやや自嘲気味ではある。最近、新人類ということばが盛んに使われている。定義はともかく、この新人類、旧人類(?)にとつてなかなか理解しにくいところが多く、その言動は新しい価値基準でもって判断していかないと、とんでもない評価をしてしまいうそである。

仕事一途に生きて来たオジサン達にとつて、うらやましいと写るかどうか。こころあたりで自分の生き方を方向転換してみようものもいいかもしれない。とはいうものの朝起きるとネクタイをしめ、仕事に出かける悲しい習性を持つアリ達なのである。

この新人類の一翼を担うのが「アリギリス」と呼ばれる人達である。キリギリスになりたいと思いつながらどうしてもなれずアリでしかいられない悲しい仕事人間を片目で見ながら、自分達は仕事はがんばり、しかし、我が身、我が生活を犠牲にしてまでもやりにたくなく、自分の生活を、時間を大切に、趣味、レジャーをも大切にすまことにアリとキリギリスの両方を地で起こうとするのがアリギリスである。

山の神

町の昔ばなし伝説(十六)

昔は山の神さんを祀るのは盛んで、山持ちが個人で祀ったり、部落で祀ったりしましたが、後には講を作つて祀りました。山の神さんは、大山祇命(おおやまづみのみこと)か木花耶媛(このはなさくやひめ)ですが、よくはわかりません。榛名さんや大峯さんを祀っているところもありました。また、桑木穴では、山の神は作神さまとして祀っております。

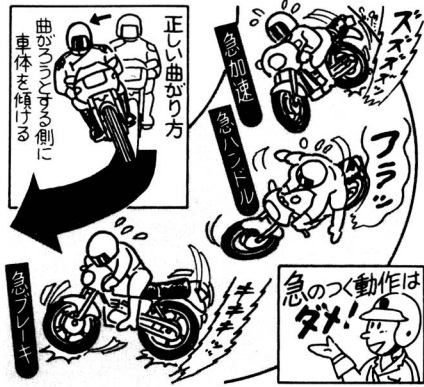
山の神さまはこわい神さまです。八日の日は山仕事を休むことになっています。この日に山に行くところもありません。また、桑木穴では、山の神は作神さまとして祀っております。また、桑木穴では、一、三、五、九、十一月の十七日に、当番の家を集って、畑で取れた芋・大根・人参などの作物で料理を作り、お茶飯で食事をしました。

山の信仰には、この信仰のほか、雨乞いの行事と関係した信仰もありました。

11月の交通事故

人身事故	6件(8)	合計	11件(15)
物損事故	5件(7)		
富士川身延線	0件(3)		
国道一号线	5件(6)		
町道	2件(4)		
県道	4件(2)		
その他	0件(0)		

( )は昨年



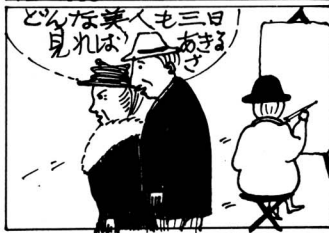
家族で話し合おう 交通安全

バイク編 カープで急のつく動作は厳禁

最近二輪車の事故が増えています。特にカープでの事故が多く、曲がり切れずに反対車線に飛び出したり、ガードレールに激突するライダーが見立ちます。これらの事故は、カープで発生する遠心力を無視したり、ハンドルに頼りすぎると起こります。バイクはバランスをとって走る乗り物。それを無理に急ハンドルで曲がろうとすると、遠心力とのつりあいがとれずバランスを崩してスリップし、最悪の場合は転倒します。カープでは急ハンドルはもとより、急ブレーキ、急加速も厳禁!! これらの動作もバランスを崩す原因になるからです。カー

ブに入る手前では十分にスピードを落とし、ハンドルだけに頼らず、曲がろうとする側に車体を傾け、自然に前輪の方向を変えながら安全に走りましょう。12月10日(水)から来年1月10日の三十二日間、飲酒・暴走運転の絶滅、歩行者及び自転車利用者の交通事故防止、シートベルト着用の徹底を重点目標として、年末年始の交通安全県民運動が実施されます。交通安全ルールを守り安全運転を心がけましょう。

星の子 185



# 戸籍の窓

S 61・10・15〜11・14届出分  
(敬称略)

## おめでた

区名	氏名	保護者	続柄
相生町	星野勝哉	弘	二男
相生町	宇佐美 恵	澄	長女
上町	齋藤史弥	充	二男
坂下	太田綾子	純男	長女
堺町	今宮達哉	成宜	長男
堺町	前島秀哉	淳	長男
新町本町	加藤恵未	好男	長女
宮町	高橋 綾	浩司	長女
小池	木本裕基	守英	長男
東町二	河原正幸	徹	長男
東町二	近藤里沙	浩	長女
日の出町	若月美紀子	伸元	長女
富士見町	笹古知子	時男	長女

八幡町	小林純平	均	二男
大北町	遠藤利香	光広	二女
俣下町	小川智史	文夫	長男

## かなしみ

区名	氏名	年齢
相生町	望月キクジ	八八
相生町	米倉とも子	三八
四十九町	佐野まき	七九
東町一	山下サチ子	七〇
東町一	井上留吉	七九
清水町	岡野かめ	七五

## 一里塚



12月に入り、本年もあますところ一か月となりました。私自身四十を過ぎ、月日の経つのを一層早く感じ、体力的にも年を感じ今日この頃です。長男も中学生となり、身長もすでに女房をとび越え、私と変わらないほどになりました。小学生当時から違い帰宅もクラブ活動等で遅くなり、勉強、塾通い、遊びと結構忙しい毎日を送っているようです。小学生の次男も学校生活にも慣れ、日増しに成長していくのを感じます。我家も今のところ平穏な毎日を送っています。

すが、一・二年先には人生を大きく左右するであろう受験戦争に突入します。その後も就職、結婚と、親としては苦労がたえません。どの家でも体験する過程であろうが、実際に直面する子どもたちはもとより親である私達にとっても今から気が重いです。子どもには日頃から準備しておくようにいつているが、なかなか親のいう通りにはならない。自分が親となり子どもを育て、しつけることの難しさを感じます。今さらながら私達三兄妹を育てあげた今は亡き両親の苦勞に対して感謝します。昔からいわれている「子を持つて親の恩を知る」「親孝行したい時には親はなし」最近、この語が私

## お母さんの知恵袋

「二百カイル問題」

二百カイルとは、約三百七十七歳で、ほぼ東京から名古屋間の距離に相当し、沿岸からこの程度の沖合までを「大陸ダナ」と呼び、好漁場となっています。そこで、自国の沿岸二百カイル水域には、他国の漁船が入って自由に漁獲ができないように規制しようというのが二百カイル問題である。

入漁料や漁獲量制限などの規制が加わってくるので、物価や動物性蛋白質の摂取量に影響することが心配されています。これを契機に、いわしやさばなど近海魚の見直し、従来の食生活の改善、海を汚さないなど、生活態度を考えなおすことが必要であると思われまます。

日本人の食生活は、世界でも上位にランクされていると、しばしばいわれています。事実その通りです。

それぞれの立場でもう一度、生きるということの中で、食ベるといふ意味を真剣に考えるときではないでしょうか。

(婦人会)



11月詠草(天野寛選)

四十九町 辻 すみじ  
誕生日ひそかに思ふわれなるに  
孫は覚えてすし求め来る

南町一 上野みつ子  
風紋の残る砂丘を越えゆく宵  
待草の残り花咲く

相生町 長谷川ゆり子  
立冬の夜明けの路地を人ひとり  
リズムをたてて走る靴音

小池 中川しな子  
山茶花つゆの小暗き一日山に昏  
れ家路に街の遠灯り見ゆ

相生町 藤沼 満  
柿紅葉の日毎散り敷く庭畑の小  
春の中小松葉勢う

富士見町 佐野いそ江  
抜き終えて稲屑燃せば煙り立ち  
鈍き音たて溢れ炊爆づ

宮町 荻野 敏音  
雲動き紅葉のかがやき移ろうさ  
ま目を見はりつつ山裾をゆく

四十九町 村山 越子  
習い初めしふくささばきを披露  
する帰省の娘と夜に向きあう

舟山町 望月 八代  
草の実のあまた作務衣につきし  
ままうなづきて御僧案内しけれ  
ぬ

## 編集後記

広報編集集中に、佐野喜平議長急逝の報に接しました。議長の前のご功績に深く感謝申し上げますと同時に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 町への寄付金

S 61・11・12

十万円 交通安全事業に  
桐山 次郎(清水町)

## 社会福祉事業寄付金(敬称略)

S 61・11・6

二万円 望月 敏男(相生町)